

～まちのカンフル剤～

新たな地域公共交通システム構築概念図

平成 22 年 3 月 19 日

都留市地域公共交通会議

I 交通会議から導き出されたもの!

現状のバス路線利用者アンケート調査実施
(回数・目的・改善要望など)

実態把握

長年バス事業者による安全な運行＝利用者の安心
(誰でも良いのではない)

安全安心

本当に必要な方への最低限の保障⇒お金を出せば何でもできるは×!
(市財政状況厳しい)

最低限確保

都留市地域公共交通会議から導き出された“6つの道筋”

情緒

バスを本市の情緒と考える＝本市の情緒(城下町)資源(山(登山))など e t c

発想転換

- ・乗って得(逆の発想)
- ・空白地帯乗入
- ・ゼロベース
(本当に必要な路線は?)
- ・空いているバス・タクシーなど利用 e t c

10年20年先

- ・高齢化社会(免許返納:交通弱者増)
- ・持続可能な公共交通
- ・市の将来構想
- ・バス事業者撤退も
- ・未来永劫負担は無理 e t c

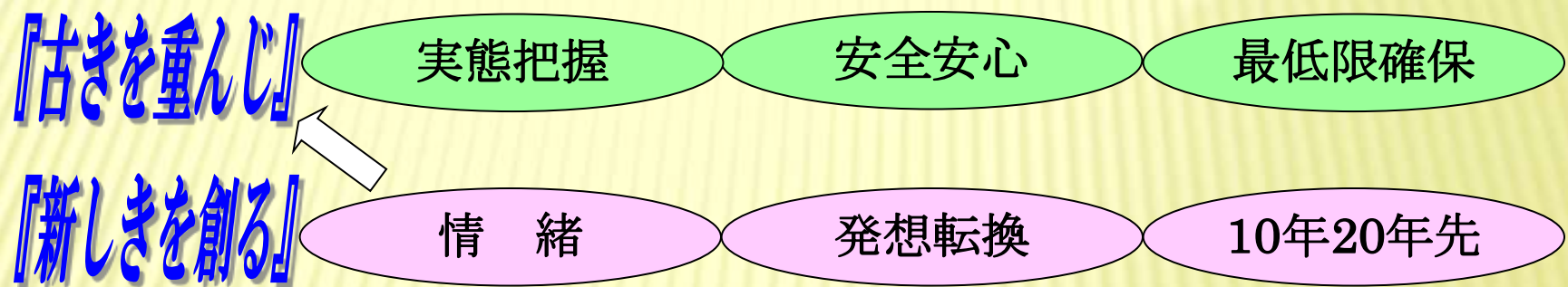
Ⅱ 勉強会から学んだもの！

- 公共交通を運賃採算だけで運営するのは今やナンセンス⇒収益事業から公益事業へ（発想の転換：維持のために公的投資が正当化される時代へ）
- 世の中は、変化しているのにバス・鉄道は変わっていない⇒自分たち（事業者）が神様ではなかったか？＝運用優先が分かりにくい路線及びダイヤ
- 利便性改善を先行させなければ利用者は増えない⇒採算の議論では解決できない＝発想を変えて動き出す必要
- 適材適所⇒地域によって異なる。オーダーメイドでつくる。＝地域の一生懸命と外部のサポート
- これからの都市交通政策は、単に移動の利便性を高めるものだけでなく、すべての都市活動や都市問題を視野に入れたものであることが重要である。
- 「交通は、都市の顔、都市の魅力」「交通は、都市の賑わいを生み出す」「交通は、都市の形を作る」

「交通**対策**」ではなく『交通**まちづくり**』

Ⅲ “6つの道筋”から見つけたキーワード

『古きを重んじ、新しきを創る 都留らしい交通まちづくり』

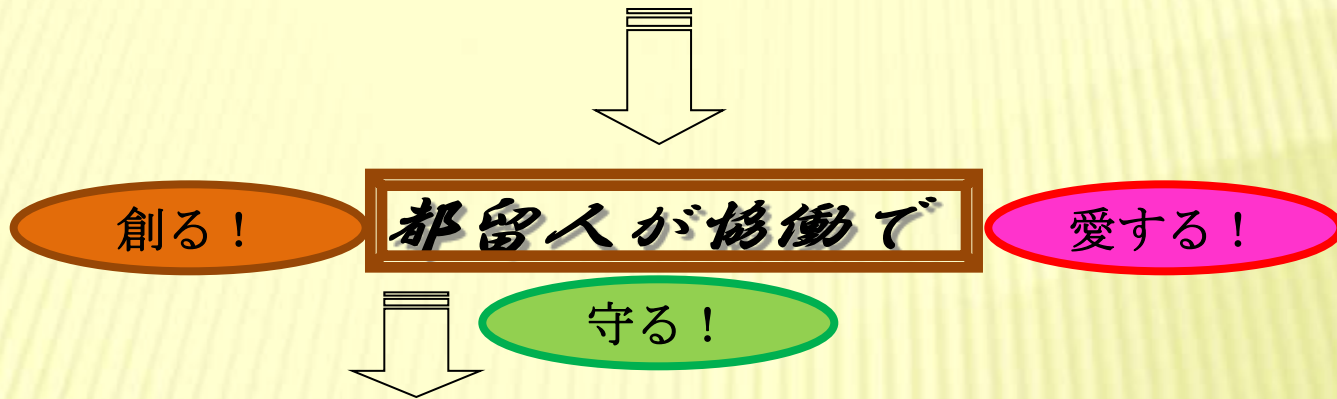


『都留らしい』

他にも
地域に
一杯ある
はず！



IV 交通で都留風土をつくるための“3つのツ～る”



都留人＝事業者？市役所？交通会議？ 違う違う 都留人は住民！

住民が創り、守り、愛し続ける、それには都留市の最大の資源

「地域協働のまちづくり」が実践者！

V 地域で創る! 守る! 愛する! イメージ

各地域協働のまちづくり推進会



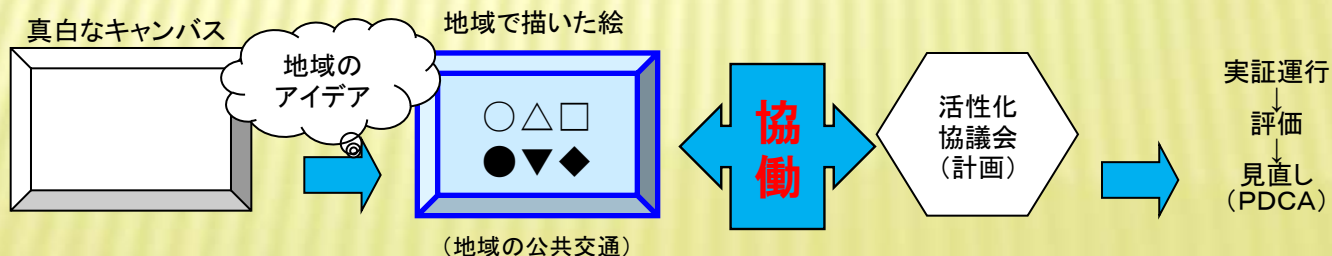
自発的

地域の路線を創る! 守る! 愛する! 会を発足

創る! : 地域内ニーズ把握、意見収集、要望、提案の整理など
(地域のニーズにあった路線づくり=持続可能な路線)

守る! : 地域の路線かわら版発行、わかりやすい時刻表作成など

愛する! : 地域での利用促進(バスででかける会発足など)、バスイベント開催(普段乗らない人発掘)、地域でのイベント開催(他地域との交流・交流人口拡大など)



Ⅶ キーワードからイメージする『都留らしい交通まちづくり』

テーマ1
～城下町～

都留市全体のイメージ



城下町

～大名行列～



山

～二十一秀峰～



登山

～富士登山電車～

大名バス～おかごにゆられて～

出かけたくなる!

大名バス：バス側面に姫&赤熊をペイント。車内も城下町をイメージ

- ・市内を4地域に分けて、病院、温泉、高校などを経由する循環バス。バスを『おかご』と考え、おかごにゆられながら市内を散策。
- ・運転手が赤熊などにふんする。バス停も瓦版風とする。各地域歴史・名所・登山情報アナウンス
- ・バス利用者がCo2削減を図ったとして付加価値を与える。
- ・老人のみ世帯及び免許なし世帯など交通弱者に対してバスカードを発行する。
- ・バス利用者付加価値：商店街活性化ポイントカード倍。病院予約制など検討
- ・バス停まで遠い高齢者は、協働のまちづくり推進会で近くのバス停まで送迎（デマンド交通システム）
- ・高校生の利用を促進し、バスの利用活性化を図る。朝夕便高校経由（部活動の時間帯要検討）同時に、スクールバスについてもコミュバスへの振替要検討（定期助成へ変更）

※広報で毎月バス情報を周知する。（啓蒙普及）広報で無料優待券配布（開業時・毎月など検討）

テーマ2 ～登山～

都留市全体のイメージ



城下町
～大名行列～



山
～二十一秀峰～



登山
～富士登山電車～

来たくなる！

二十一秀峰登山バス

登山バス：富士登山電車と同じカラーリング。登山ルート入口にバス停

- ・都留市の一番の資源は『山』。市民及び市外の登山者の利便性を増やし、交流人口拡大を狙う。ただ、車で来て登って帰るのでは、地球温暖化を助長するだけになってしまうので、バスを利用することで二酸化炭素削減につなげる。また、地域の活性化も同時に図る。
 - ・二十一秀峰をバス利用で区切り達成と全達成に記念品
 - ・二十一秀峰登山案内人（トレッキングアドバイザー）を養成し、登山者案内サービスを行う。
 - ・市内名産品カタログを作成し登山者へ配布。電話予約により帰りに届ける。その後宅配注文可とする。
 - ・富士急行(株)富士登山電車とタイアップ（登山電車・登山バス・温泉セット券販売）
- ※広報で毎月バス情報を周知する。（啓蒙普及）広報で無料優待券配布（開業時・毎月）

これは、事務局案。これに地域のアイデアを入れ、そして、住民が責任を持って乗るシステムが必要！

ご清聴ありがとうございました！